

# 大雨による災害から身を守る

近年、日本各地で大雨や台風による災害が長期化・甚大化するケースが増えています。避難の準備はできていますか？ 日頃から準備をしておきましょう。 問合せ 役場総務課消防防災係 ☎295-2112内線311

## ■ 災害リスクを確認しましょう

自宅や勤務地、通学路などの区域に、災害発生の恐れがあるのか確認しておきましょう。ハザードマップを掲載している「毛呂山町防災マップ」は役場総務課、町公式ホームページで入手できます（右記QRコード）。



## ■ 「警戒レベル4」で危険な場所から**全員避難**！避難情報を確認しましょう

警戒レベル	住民がとるべき行動	行動を促す情報
<b>5</b> 災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保！ 	緊急安全確保 (毛呂山町)
<警戒レベル4までに必ず避難！>		
<b>4</b> 災害のおそれ高い	危険な場所から <b>全員避難</b> 	避難指示 (毛呂山町)
<b>3</b> 災害のおそれあり	危険な場所から <b>高齢者等は避難</b> 	高齢者等避難 (毛呂山町)
<b>2</b> 気象状況悪化	自らの避難行動を確認 	大雨・洪水・ 注意報 (気象庁)
<b>1</b> 今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める 	早期注意情報 (気象庁)

## ■ **マイタイムライン**を家族でつくりましょう

家族で災害時の行動を整理して防災計画を立てましょう。落ち着いて自分の身を守る行動ができます。防災マップ3、4ページを参考にしてください。

## ■ **情報**を入手しましょう

毛呂山町メール（要事前登録）、電話応答サービスでも、防災行政無線で放送した内容をご確認いただけます。登録、確認方法については広報19ページをご覧ください。

# 町の無料相談

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため変更・中止となる可能性があります。

相談種類	日にち	時間	相談場所	申込み・問合せ	
法律相談	弁護士	8/9(火)、8/22(月) 9/13(火)、9/26(月)	13:30~16:00	役場会議室	役場総務課☎④313 (要予約)
	行政書士	8/17(水)、9/21(水)	10:00~15:00	役場会議室	役場総務課☎④313
人権・行政相談	8/12(金)、9/8(木)	13:30~16:00	役場会議室	役場総務課☎④313	
成人健康相談	9/1(木)	10:00~11:30	保健センター	保健センター☎294-5511	
	8/1(月)	10:00~11:30	役場1階町民ホール		
電話健康相談	平日	9:00~17:00	保健センター☎294-5511		
育児ほっと相談室	8/24(水)、9/20(火)	10:00~11:00	児童館内子育て支援室	保健センター☎294-5511	
もの忘れ相談会	毎月第3木曜日	10:00~12:00	中央公民館	地域包括支援センター ☎295-2112④127	
子育て相談 なんでも話してみよう	平日	10:00~15:00	役場相談室 子育て支援センター	子育て支援センター ☎294-4820 (要予約)	
教育相談	平日	10:00~16:30	教育センター☎295-2525	(電話相談可)	
心配ごと相談	毎月第2・4水曜日	10:00~12:00	社会福祉協議会(毛呂山町川角303-3)	☎295-0601	
消費生活相談	毎週月・火曜日	10:00~15:00	役場相談室	役場産業振興課☎④214	
生活困窮者自立相談 ※生活保護受給者以外	平日	8:30~17:00	アスポート相談支援センター埼玉西部毛呂山出張所 (社会福祉協議会内) ☎080-2274-1445		

## 歴史散歩

第338回

### 昭和の夏の風物詩 ～蚊帳～

夏休みシーズンに入り、山へハイキングや海で海水浴など、外にレジャーに出かけることが多くなる季節になりました。

この時期に活発に活動する蚊は、山や川などに出かけた先や部屋のなかなど、ありとあらゆる場面で見かけ、私たちを悩ませる存在です。就寝時に蚊の羽音が気になり、なかなか眠れない夜を過ごした経験のある人も多いのではないのでしょうか。

昭和30年頃までの毛呂山の農家では、風呂の排水などをためておく水溜や、人の糞尿を肥料として使うための肥溜が各家庭にあり、蚊やハエなどが育ちやすい環境でした。そのため、現在よりも身の回りに多くの蚊が発生し、人々は蚊と共に生活していました。

家のつくりも草葺き屋根の建物が多く、網戸がなかったため、蚊をなるべく部屋に入れないために、蚊が発生しやすい夏場には防虫対策として蚊帳や蚊取り線香などが使われました。

蚊帳は寝室などにつるし、布団のまわりに網の囲いをつくることで、蚊などの害虫が入らないようにする道具です。昭和40年代まで多くの家で使われました。

蚊帳に入る際には蚊帳をパタパタと揺すり蚊を追い払った上で、サツと素早くぐぐつてなかに入りました。

蚊帳には麻と木綿(もめん)のものがいましたが、木綿は風を通さないため、麻の蚊帳の方が好まれました。また、蛍が日常的に見られた頃は、夜に蛍を捕まえて蚊帳のなかに入れ、その光を鑑賞しながら夜を明かした人もいたようです。

昭和40年代から50年代にかけて毛呂山では上下水道の配備が進み、肥溜もなくなつたことで、虫の数は徐々に減っていきました。また、家の建て替えて網戸がついた家も増え、家のなかに虫が入ることが少なくなつたため、夏の風物詩として親しまれた蚊帳が使われる機会は少なくなつていきました。

※歴史民俗資料館では、8月28日(日)まで開催している前期企画展「毛呂山の昭和のくらし」なつかしのあの頃にもどつてみよう」にて、実際に入れる蚊帳を展示しています。



前期企画展で展示している蚊帳(昭和32年製)  
※展示期間中は蚊帳に自由に入れます。